

巻頭言



「10万個の子宮」をめぐって

気仙医師会 会長
滝田医院 院長

滝田 有

彼女は優しすぎる、良い意味でも悪い意味でも、というよりも正直印象は薄かった。

2011年の大津波は多くの知った人を我々から奪ったが、多くの人と知り合う機会を我々に与えた。彼女もその一人だ。2013年早春、ビジネス誌の編集長に連れられて気仙を訪れた。環境未来都市構想における医療復興が取材のテーマだった。その後2015年、未来かなえ機構の設立披露にも駆けつけてくれた。学歴は異色だった。一橋大卒業後に北大医学部に入り直し医師となった。私は聞いてみた、「なぜ医師になったのか」と。彼女はたぶんこのように答えた、「医療へ社会的にアプローチをしたい」と。けれども彼女がその道を歩むのはかなり難しいように思えた。寡黙だし声のトーンも弱々しい。内面の芯の強さが滲み出てくるタイプでもなかった。

2017年10月、彼女は英誌「ネイチャー」から「ジョン・マドックス賞」を受けた。公共の利益の問題について、障害や敵意に晒されながらも、健全な科学に基づき貢献した個人に与えられる権威ある賞だ。彼女の授賞は国内で子宮頸がんワクチン接種の危険性を煽るマスメディアと一部の医師のミスリードを告発し続けた功績によるものだ。最初の論説は2015年10月、ビジネス誌「Wedge」に載った。名前を懐かしく思った私はそれを読み、理路整然さに感銘した。東海道新幹線グリーン車に搭載されている雑誌なので反響を呼んだ。しかしマスメディアはその言説を徹底的に黙殺した。私は彼女のツイッターをフォローしていて今回の授賞を知った。同じ「ネイチャー」でもかつてのSTAP細胞発見の大騒ぎとは大違いだ。子宮頸がんワクチンの危険性を煽る被害者団体や一部の学会の存在は知られている。これらがマスメディアを利用して報道をコントロールしている事情があるらしい。彼女や家族に対する誹謗中傷も凄まじいものがあったと聞く。彼女の主張に対して是非の結論はいまだ出ていない。けれども大きな声の陰に小さいながらも果敢で力強い声があるのを知ってほしい。

「男子三日会ワザレバ、刮目シテ見ルベシ」と古人は言ったが、彼女を引き合いに、女子もだよっと付け加えたい。

受賞おめでとう！

* 彼女こと村中璃子（むらなか りこ）氏のジョン・マドックス賞受賞スピーチ「10万個の子宮」全文はネット上で読むことができる。
(2018年1月8日記)